

令和4年度滋賀県立大学・大学院 学位記授与式 学長式辞

キャンパスの桜の蕾も大きく膨らみ、春の訪れを告げるこの良き日に、令和4年度滋賀県立大学並びに大学院の学位記授与式を挙行し、学士598名、修士105名、博士4名の学位取得者の栄誉を称えることは、本学に取りまして誠に大きな慶であります。

皆様、ご卒業、ご修了、おめでとうございます。

学部を卒業される皆さんにとっては学生生活のほとんどが、また、大学院を修了される皆さんにとっては、院生生活全てが、入学前には夢想だにしなかった新型コロナ禍とともにありました。そのような中、いろいろな困難や制約を受けながらも、教職員の指導や協力、また、保護者の応援、さらに、地域の方々の支援も頂きました。オンライン授業をはじめ、フィールドワーク、実験や実習、また、研究を通して、仲間と励まし合いながら、自ら努力し学び続けることにより、本日の良き日を迎えられたことに敬意を表しますとともに、滋賀県立大学を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

この学生生活で得た経験は、将来人生の糧となるものと確信しています。新型コロナ禍では、それまでの当たり前であったことが大きく制限され、人と人の交流が困難となりました。翻って考えると、日々の生活を送る上で、人との関わりが必要不可欠であることを、再認識させられました。

そして、日常生活が様変わりし、皆さんは生活のみならず、学びの上でも大変な苦勞をしながら、対面授業や課外活動を通して、いろいろなことを話し合える友達を作られたものと思います。私の経験では、学生時代の友達は、本音で話し合うことのできる、掛け替えのない人生の宝です。卒業、修了後は、それぞれ進む道は異なりますが、学生時代の友達をこれからも大切にし、交流を続けられることを願っています。

卒業、修了は、学生生活に別れを告げ、新しい次のステージに歩み始める人生の大きな節目です。そして、同じくして、3年余り続いた新型コロナ禍も明けようとしています。来るべきアフターコロナの時代は、価値観がさらに多様化し、VUCAと言われる予測不能な時代と考えられます。

卒業、終了後は、滋賀県立大学で学んだことを礎として、知的好奇心と感性を養い、さらに、論理的、想像的に考えを巡らせてください。そのためには、様々な分野の本を読むことをお勧めします。そして、本質を見抜く力を磨き、柔軟な対応力を持って人生を切り開いてください。

「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する」人が育つ大学である滋賀県立大学で学んだことを誇りとし、自信を持って、自分自身の人生の新しいページを描き続けてください。そして、平和で豊かな社会の実現に向けて力を発揮されることを願っています。

皆様のご卒業ご修了をお祝いするとともに、これからの前途に幸多きことを祈念して、式辞といたします。

令和5年3月21日

滋賀県立大学 学長 廣川 能嗣